

## 益田市の現状課題と未来への展望

所属:益田支局

氏名:本田行信

益田市は日本海と中国山地に面し、総面積の大半を林野が占めています。中央部には清流日本一に輝いた実績を持つ高津川があり、水質の良さがもたらす鮎やモクズガニといった豊かな恵みを与えています。また柿本人麻呂、雪舟といった文化人の終焉の地であり、中世の山陰地方を知るための資料として非常に価値のある武家文書、『益田家文書』（東京大学史料編纂所に所蔵）で知られる益田氏の拠点でした。鎌倉時代に雪舟の作った庭は、萬福寺、医光寺にあり益田の観光資源です。また中世のみならず、幕末の第二次長州征伐（石州口の戦い）の舞台、扇原関門などの史跡や伝統文化、石見神楽の継承が熱心にされており、自然や文化、歴史など資源豊富な町です。しかし大学進学等による若年層の都市圏流出、高齢者の増加による人口減少は確実に進み、平成 25 年 4 月には 50,000 人いた人口も平成 30 年 12 月末では 47,000 人を割り、人口減少に歯止めをかけることは重要な課題です。

そんな中、平成 27 年には「益田市総合戦略」を策定し「ひとづくり」を総合戦略を貫く大きなテーマと位置づけました。それに伴い平成 28 年 3 月には「益田市ひとづくり協働構想」を策定し、生涯各期における実施施策やテーマを明確にしています。平成 29 年 7 月には大正大学と人材育成や地域活性化に向けたまちづくりなどの諸分野において相互協力をする旨の連携協定を結び、地域創生学部生の実習受入を開始したことは益田市にとって非常に有益で、今後に大きな期待をもち、様々な可能性を求めることのできる出来事でした。大正大学だけでなく、島根大学、島根県立大学とも連携協定を結んでおり、人材育成や共同研究、まちづくり等の分野で相互の協力体制が整備されています。連携協定は行っていないが、東洋大学、奈良大学、広島大学等のゼミや学生さん個人が益田市内の各地にて研究を行ったり、そこで暮らす地域住民と共に問題解決に取り組む等の活動も行われています。世代や出身地、住んでいる地域等の違いを越えて「この街に何ができるのか」「ここをどうしていくか」を考えあい、学びあう環境が少しずつではありますが、整いつつあります。

平成 30 年 3 月には【益田ひとづくりフォーラム 2018】が開催され約 500 名の参加がありました。その内、地元地域をこれから担っていくであろう小中高生が 150 名、県外から 100 名の参加があったことは特筆すべきことであり、人づくり、地域創生にかける参加者の思いを感じ取ることができました。参加者からは「いろいろ人の話を聞いてみて、まずは行動してみることが大切だと気付かされた（14 歳）」、「大学生の話聞いて、自分もこれから県外へ進学するけど、益田のために何ができるのか考えていきたいと思った。（18 歳）」、「生き生きしている若者を見て、負けていけないなという気持ちになりました。（49 歳）」、「やりたいことが見つかりました（79 歳）」といった感想が挙げられました。世代を越えて一人ひとりが「自分の暮らす街に何ができるか」について考え、学ぼうと思えば集まった方が多い証拠です。「益田市ひとづくり協働構想」にもうたわ

れている『生涯各期において、「学び」、「考え」、「経験し」、各自の新たな方向を選択する』ことができた日だったと確信しています。

また平成 28 年度には、【新職場体験】という事業が開始されました。従来の【職場体験】は自分たちの進路を考える一つの材料にするために、または様々な職業を体験することを目的に、益田市に限らず多くの地域で行われてきました。ただ、そこでは単にその仕事を体験してみることのみが行われており、「益田でその仕事を行う価値」であったり、「益田でその仕事が存在する意義」、そして何より「益田でその仕事をする人の思い」については、生徒が触れたり考えたりする機会がほとんどありませんでした。

その取組をリメイクしたのが【新職場体験】です。ただ単に事業所に出向いて仕事を体験するのではなく、益田に生き生きと暮らす「ひと」との出会いを通して、様々な価値観や生き方に触れ、「自分は何を大切にするか」、「どう生きるか」を探求する社会教育プログラムです。受け入れ事業所に対しては「自分たちの仕事や働いている人の魅力を積極的に伝える場」、「リクルーティングの場」、「中学生への指導を通した若手職員の人材育成の場」であることを共有しました。

そして何より大切にしたのは、双方の「対話」です。生徒対象の事後アンケート結果から、対話があったと感じたと回答した生徒は、そうでなかったと回答した生徒に比べて、「働くことに対するイメージがよくなった」、「益田には魅力的な事業所（職場）がある」、「いずれ地元に戻ってきたい」、「益田市は魅力的な街である」といった項目で、肯定的な回答をする割合が高いことが分かりました。

益田市にいと「地域を作るのは人の力」だと強く感じるすることができます。それは様々な方面から「ひとづくり」に対して真剣に向き合っているからに他なりません。これからも益田市の「ひとづくり」から目が離せません。